

NPO法人「風に立つライオン」(堂園晴彦理事長)

では、毎年、医学生・看護学生を10人程度ボランティアとして、インド・カルカッタにある「死を待つ人の家」に送り出す。

医療・福祉への途上者が、自らの心身が他人の役に立つことを経験する「時間と空間」である。私も壮行会に参加し必死の挨拶をする。

「実践は制度を超え、神学を超えて神の愛を現わす。三〇年間、キリスト者・国家公務員として、実践の意義と価値を学んだ。僅か二〇歳で実践の体験をされることを羨ましく思う」

本書で山本は記す。「ぼくはマザー・テレサがカルカッタに開いた『死を待つ人の家』のことを思った。あのようなものはたして山谷に実現できるのだろうか、試してみたい」。本書の副題は「『きぼうのいえ』の無謀な試み」。

一人の神学生が「生活する場」事業を、二〇〇二年から山



谷に生み出していく。きぼうのいえは、自分の人生を生き直すための場所である。彼らが人生の最後のときに生きる希望を取り戻し、悲しみを癒していくことができる場でありたい。

山本の記述は生々しい。「きぼうのいえでは、どんな状態の入居者もスタッフと対等ではない。：してあげているのでも、させていたでいるのでもない。介護は恩を着せたり、卑屈になつたりするものではないのだろう」。その考えは見事。しかしその実践のため、山本は数度にわたり鬱病になる。山本と

## さんや 山谷でホスピス 始めました。

山本雅基 著

実業之日本社 1,680円(税込)

2006年3月刊

河幹夫・評  
(内閣府大臣官房審議官)

REVIEW

# 評

同労の妻、美恵さんの率直さが感動を呼ぶ。私も「無理するなよ!」と語りつつ、「無謀さの生む爽やかさ」に心軽くなる。福祉は制度が作り出すものではなく、実践こそが制度を生み出す。山本のような「無謀な試み」こそが、我が国の福祉を世界に誇るものに創りあげる。

多くの方々に、素敵な本書をお読みいただき心のこもった支援もお願いしたい。

著者プロフィール

(やまもと・まさき)一九六三年生まれ。九五年上智大学神学部卒業。二〇〇二年一月「きぼうのいえ」開設。

# 人生の最後に希望を取り戻すために